和光中学校学校通信　*生徒会スローガン「自学豊心 ～前向き・励まし・思いやり～」*

ひかり

令和５年７月２０日
第 ４ 号

言葉の壁の向こう側に

はるか昔、20 歳で挑戦したアメリカでのホームステイが私の人生を大きく変えました。大学に入学してからの２年間、自分の英語力を試すためにアメリカへ行くことだけを目標にしてＥＳＳ（英会話力を身につける部）の活動とアルバイトに明け暮れました。今とは違って「１ドル＝238 円」という時代で、１ドル紙幣たった１枚を手にするために、苦労して稼いだ 238 円もの大金を支払わなければなりませんでした。それでも何とか出発の日を迎え、飛行機に乗り込み機体が成田空港の地面を蹴ってふわっと飛び立った瞬間、夢が叶う喜びで胸が一杯になったのを今でもはっきりと覚えています。

アメリカでの２か月間は、まさに波瀾万丈の毎日でした。ホームステイ先の小６の一人息子ショーン君の友だちにスーツケースの中の現金を盗まれたり、ショーンに譲ってもらった部屋が燃やされ部屋中が消火器の粉だらけになったりと、退屈する間もなく２か月があっという間に過ぎていきました。

ある日、世界各国からアメリカを訪れている若者が集まり、首都ワシントンＤＣへ行くことになりました。大統領が住むホワイトハウスを眺めながら、北欧の国デンマーク、フィンランド、アフリカのナイジェリア、トルコ、インド、南米ブラジルなどいろいろな国の人と語り合いました（不完全な英語のせいで意思疎通が十分できないこともありましたが）。デンマークの女の子が５カ国語を話せると聞いて“That’s great! You’re a genius!!（すごい！天才だ！！）”と私が言うと、とても冷めた表情で「日本とは違って私の国には十分な経済力がない。５カ国語ぐらい話せるのは当たり前。外国語が話せないとまともな仕事には就けない。」と返ってきました。インドの 19 歳の青年が「僕には婚約者がいるんだ。」と言うので「どんな人？」と尋ねると、「会ったことがないので分からない。家族や親戚が決めた人と結婚するのが自分にとっての幸せ。見た目など関係ない。」と返ってきました。この日帰りの旅で私は異文化という嵐にさらされ、「もしかしたら、私が『当たり前』と思い込んでいる『常識』は『世界の非常識』かもしれない。世界は驚きに満ちあふれている。英語にもっと磨きをかけ、もっと多くの人と語り合うことでおもしろい人生をつくっていきたい！」と思うようになりました。

先日、台湾ネイリー国民中学校との交流活動を通して、私達はほんの小さな異文化体験を心に刻みました。短い時間ではあったけれど、心が通じ合う喜びを感じたりもっと語り合いたいのに言葉が出てこない悔しさを味わったりしました。ただ一つ確かなものと言えば、この文化交流を通して感じた「言葉の壁の向こう側に何かおもしろいものがあるかもしれない」という感覚ではないでしょうか。そして、このわくわく感こそが人生を豊かにするカギなのです。どうか忘れないでいてください。

ここで、いくつか感想を紹介します。

- ○ ネイリーの程冠維とはあまり話せなかったけど名前を覚えてもらえたのでうれしかった。交流したことでいつもより行動できた気がします。少し話しかけてコミュニケーションが取れたので一生の思い出になりました。
- ○ 英語とジェスチャーを使って楽しい時間を過ごせました。仲良くなれてハイタッチをしたりしました。
- ○ 自己紹介をするときにむっちゃ緊張しました。カクくんはとても優しくて最後の写真撮影の時も肩を組むジェスチャーをしたら少し笑いながら肩を組んでくれました。いつかまたカクくんと会いたいです。一緒に楽しめたかどうか分からないけれど、いい思い出になったのなら嬉しいです。
- ○ ネイリー中の人が僕たちのために上手な日本語で自己紹介をしてくれたので、ぼくももっと上手に英語を話せるようになりたいと思いました。ぼくも相手に上手く伝えられるように努力したいです。
- ○ 最初緊張したけれど自己紹介で英語をすらすら言えました。またクイズ大会の時は、みんなで協力して仲も良くなっていたので、こんなに短時間で仲が良くなるんだとびっくりしました。またこのような交流をしたいです。